

第9回 全国山羊サミットin岩泉 特集号

全国の山羊愛好家が年に一度大集合する『全国山羊サミット』という催しがあります。参加者は、山羊研究者から山羊飼育農家、山羊関連商品販売業者や山羊を飼育する幼稚園の先生、はたまた山羊を飼って見たいなあと思っている人や、たまたま開催地の近所に住んでいてちょっと覗いてみようかなと思った人まで様々です。今回で9回目となる全国山羊サミットは秋深まる岩手県岩泉町で10月7～8日の日程で開催されました。

初日は、台風の影響で新幹線の到着が大幅に遅れ、予定を一時間繰り下げて開会式が始まりました。続いて岩手県の農畜産事業の紹介、お昼をはさんで



講演、事例報告・問題提起、話題提供、総合討論と意見交換の後、夕方には懇親会が開かれました。2日目は、くずまき高原牧場視察(バイオガスシステムとチーズハウス)とジングスカンの昼食が盛り込まれました。

講演では、畜産草地研究所の的場氏より中山間地域の耕作放棄地管理における山羊の『舌刈り』の目覚しい効果と、それに付随する山羊の付加価値的な効用が、(独)家畜改良センターの白戸先生からは山羊の衛生管理について、飼育者が知っておかなくてはならない山羊の特性や正しい飼養管理方法についてのお話がありました。事例報告・問題提起では、茨城大学の安江先生より、中国石灰岩区および国内耕作放棄地における山羊の放牧飼養による自給的土地利用例が、大阪府立農芸高等学校の女子高生3人組からは山羊を活用した動物介在活動や動物介在教育例とその効果が、日本獣医生命科学大学の小澤先生から日本における山羊飼養と山羊乳マーケティングの実態が報告されました。また、話題提供として、岩手県で殺菌山羊乳を生産・販売する川徳牧場の川村氏より牧場の歴史や現状が、最後には岩手県で山羊と暮らす人々の様子が紹介されました。



目次:

第4回日本山羊研究会 2

山羊の人工授精講習会 2

牧場訪問～川徳牧場～ 3

お知らせ 3

ハイライト:

10月は、研究室を留守にして一足先に秋を迎えた東北と信州で、全国山羊研究会、全国山羊サミット、家畜改良センター長野牧場の人工授精講習会(山羊)と山羊尽くしの一ヶ月でした。研究室の外に出るといろいろな人々との新しい出会いがあり、それはそれで楽しいものです。研究室では飲み会が激減したとの専らの噂が…?

全国山羊サミットニュース

今回の全国山羊サミットで、一番目を引いたのが大阪からの女子高生3人組の発表でした。『ヤギさんイイとこ見つけ隊ーヤギの活用法の探求-』と銘打った講演では、大阪府立農芸高等学校 資源動物科農業クラブ「ふれあい動物部」のクラブ活動内容を若々しい黄色い(!)声で元気に発表してくれました。高校生の『探求』とは言え、『ふれあい動物園活動』で保育園や小学校、老人介護施設まで様々な施設を回ってヤギに対する意識調査をしたり、ヤギの除草実験を行ったり、小学生を対象に『山羊を用いた動物介在教育活動』を行い、それらの効果を発

表するという、なかなか侮れない研究内容の発表でした。曰く、ヤギには『社会潤滑油効果』『植生管理効果』『景観向上効果』『教育教材効果』が備わっているということです。日本経済にひとかたならぬ影響を及ぼす女子高生がこんなに夢中になるなんて、日本の山羊の将来は、まだまだ明るい!

その後の調べで、この「ふれあい動物部」はこれらの活動で、第54回読売教育賞などいくつかの賞を獲得しているつわものだということが判明しました。ちなみに顧問の石田真一先生も若々しい男性教諭でした。

第4回日本山羊研究会

全国山羊サミットに先行して行われた日本山羊研究会では、国内の山羊種畜改良を率いてきた家畜改良センター長野牧場が山羊・ウサギ業務を縮小するとの内容が報告され、出席した山羊研究者に少なからずショックを与えました。また、全国山羊サミットで毎回懸案事項に掲げられている山羊の屠畜場問題や乳等省令の山羊乳脂肪率問題、山羊の害獣駆除効果についても活発な意見が交わされました。

(独)家畜改良センターの事業は、年間予算90億円にのぼり、規模の縮小や業務の民間委譲が求められている。総務省政独委勧告の中に『家畜の改良・増殖業務の重点化(乳用牛・肉用牛・豚・鶏の4種畜)』が盛り込まれており、山羊、めん羊、ウサギにおける種畜配布の廃止を目標としている。長野牧場の山羊に関しては、1)畜種配布業務の民間委譲、2)普及啓蒙への特化へ移行することが求められている。具体的には、平成19年度までにシバ山羊を大学等研究機関へ、ザーネン種に関しては平成21年度までに民間を中心とした体制へ移すことが掲げられている。(独立行政法人家畜改良センター中期計画 <http://www.nlbc.go.jp/>)日本の山羊の将来は、民間が背

負っていくことになるということでしょうか。

さて、このほかBSE問題の発生以来、年々山羊を処理してくれる屠畜場(食肉センター)が少なくなっているため、搾乳農家が雄山羊の処理に困っている。また乳等省令の山羊乳脂肪率3.6%は、事実上難しい数字である。これらの問題に対し山羊ネットワークから行政に対し何らかの働きかけが必要ではないかという問題も取り上げられま



お座敷部屋のアットホームな雰囲気の中で行われた日本山羊研究会

したが、法律改正は大きな労力を伴い、実際には困難なため別の対応策を講じた方が得策であろうという話し合いも行われました。また、滋賀県の事例から、山羊が鳥獣害対策の一手段になりえるのではないかと、山羊の新しい利用価値も示唆されました。今後の取り組み成果が気になるところです。

山羊の人工授精講習会

第8回人工授精講習会(山羊)が、独立行政法人家畜改良センター長野牧場で10月10日から27日まで3週間の日程で行われました。わが畜産資源学研究室からは、修士2年の上原さんと、修士1年の私(塚原)が参加しました。受講生は全部で7名で、長野牧場、茨城県畜産草地研究所、沖縄県畜産研究センターの方々に参加していました。

講義の内容は、畜産概論、家畜育種、関係法規などの一般科目と繁殖生理、人工授精など専門科目の座学合計10科目73時間に加え、生殖器解剖、精液精子検査法など6科目の実習を行い、最終日には修業試験があります。試験に合格すると、在住または本籍地の都道府県に申請して晴れて国家資格の『人工授精師』となります。かかる費用は、基本的には家畜人工授精講習会テキスト代の4725円のみで、講習費はありませんでした。

前半2週間は、朝9時から夕方5時までぎっしり座学が詰まっています。講義をされるのは、大学の先生や家畜人工授精師協会の理事などお偉方の外部講師の方々と、家畜改良センターの先生方です。教科の多さに加え内容が幅広く、悪戦苦闘の毎日でした。受講中には、地元の新聞社が取材に訪れ、10月18日付信濃毎日新聞と10月20日付週間佐久市民新聞に私達の受講の様態とインタビューが掲載されました。学科の受講を終えると、後半の1週間は実習が主体となります。毎朝雌山羊の発情鑑定を行い、発情徴候のある種雌山羊には、液状精液か凍結精液を使って実際に人工授精を行いました。雌山羊の保定、子宮頸管の保持と頸管深部への希釈精液注入…初めてのことにみんな戸惑いながらもひとつずつ課題をクリアしていきま

た、長野牧場の講習では全国でも珍しく種雄山羊からの精液採取と精液検査、希釈、ストロー凍結精液作成までの実習も行います。生殖器解剖の実習では6ヶ月令の雄山羊を解剖して、内臓と生殖器を観察し、その日の夕方には食味試験(刺身で!)も行いました。U原さんと長野牧場職員の方K谷さんの受講生女子2名でホタテ刺身風味の生殖器をほぼ一つ平らげてしまいましたとき…

さて、最終日の27日金曜日は朝から修了試験。10教科に及ぶ試験をこなしていきます。あ〜長いようで短かった講習会もこれでおしまい。仲良くなった受講生仲間や牧場の皆さんともお別れと思うとちょっぴり寂しい気分…合格発表前だけど、打ち上げには力が入ります! 何処まで行ってもお酒とは縁が切れないですね…(苦笑)長野牧場の皆様、大変お世話になりました。手作りのくすみ味噌、とても美味しかったです。



週明けの10月31日、無事全員合格の吉報が入りました。よかったよかったです。

平成18年度家畜人工授精講習会の模様は、長野牧場のホームページからご覧いただけます。

<http://www.nlbc.go.jp/nagano/>

牧場訪問「川徳牧場」の巻

殺菌山羊乳の国内有数の生産者、岩手県滝沢村の川徳牧場さんを訪問してきました。川村さんは、先代が開拓農家で、もともと牛乳生産を行っていたそうですが、現在では山羊乳生産がメイン。搾乳山羊頭数80頭余りをご夫婦二人で毎日搾乳していらっしゃるそうです。全国からインターネットを通じて注文が来るそうで、山羊乳の少なくなる秋以降は出荷が注文に追いつかないのが悩みの種だそうです。生まれた雄山羊は、枝肉として販売したり、沖縄へ「山羊刺し」用に生体で出荷しているということでした。ここでは山羊乳、山羊のヨーグルトのほか、山羊の粉ミルクの生産販売も行っています。川徳牧場のヤギミルク製品入手方法は、楽天市場 <http://www.rakuten.co.jp/sakemuseum/272418/296998/296999/> 愛犬厨房 <http://www.i-ken.jp/shop/item/SP003.htm> からどうぞ



川徳牧場の搾乳山羊たち



川村さんちの山羊のミルク
1本250円

お知らせ

全国山羊サミットの運営母体、全国山羊ネットワークは、1998年に創立。2006年3月末現在の会員数は、団体・個人併せて約400名。年に一度の全国山羊サミット開催のほかに、機関紙『ヤギの友』の発行、ホームページで意見交換の場の提供もしています。山羊が好きなら誰でも参加できる気軽さがウリです。興味のある方は、会員になってみませんか？年会費は個人3000円、団体10000円です。詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.japangoat.net/>

全国山羊サミットでの講演、(独)家畜改良センター岩手牧場の白戸綾子先生の『山羊の衛生管理』は、私達が山羊を飼育管理する上で必要な情報満載でした。そこで、この講演のスライドをお借りしてきましたので、11月15日のゼミ修了後に伝達講演を行いたいと思います。どうぞお楽しみに。

Laboratory of Animal Husbandry Resources

Department of Animal Husbandry Resources, Kyoto University, Faculty of Agriculture, Oiwakekyo, Kitashirakawa, Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

Tel: (+81)-75-753-6363
Fax: (+81)-75-753-6373

GOAT BULLETIN



ホームページもご覧ください
<http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/>

編集後記

盛岡から路線バスで約2時間半の道のりをかけて、今回の山羊サミット会場の岩手県下閉伊郡岩泉町龍泉洞温泉に辿り着きました。一日に4本運行する路線バスは、途中早坂高原のドライブインでトイレ休憩を取ります。私はトイレ休憩のある路線バスに乗車したのは今回が初めてでした。早坂高原は、標高約1000メートル。10月のはじめとはいえ雨の影響もあって外気温9度と冷たい空気が立ち込めていました。山々は紅葉の真っ盛りで、バスの車窓から望む景色は緑～黄色～赤と鮮やかでした。ところどころに満開のコスモスが咲き誇る高原を下って行くと、収穫を終えた田んぼの稲架が山間地により一層秋の郷愁を与えて、忘れかけていたのどかな日本の田舎町を演出しています。一方で、まだ収穫の終わらないとうもろこしが青々とした夏の余韻を漂わせています。

開催案内をもらってから「そんな辺鄙な田舎に本当に人が集まるのだろうか…」と散々心配しながら向かった岩泉でしたが、到着してみると携帯の電波は通じないし、ホテルにもインターネットアクセスはありません。おまけに台風の影響でひどい悪天候に見舞われ、土地一番の観光地の龍泉洞(鍾乳洞)にも辿り着けない有様…しかし全国の山羊好きさんはそんなことではめげませんでした。120人分の席を設けた会場(町民体育館)は超満席状態で、地元の特産品や山羊グッズを売るコーナーも大盛況。夕方行われた懇親会には地元の主婦の方々が地産品を使った手料理でもてなしてくださり、心温まる会になりました。

来年の開催地は、鹿児島だそうです。皆さんも機会があれば、全国山羊サミットを覗いてみませんか？

全国山羊ネットワークホームページ <http://www.japangoat.net/>